

虐待関連の要項事項の不備で3ヶ月の減算も終わり、胸をなでおろしていますが、この虐待って、結構面倒なしろもので、経済的、肉体的等の虐待の種類は省かしてもらいますが、別視点からみてみたいと思います、例えば、愛のムチとか、本人の教育の一貫だとか、時代的背景も絡んできて、虐待と言っても、奥深いもので考察すると難しいと思いますが、あえて、簡単にまとめると、虐待される人が苦痛を感じたら基本的に虐待と言って良いかもしれませんね。そういう単純な見方をすれば、愛情であろうと、教育であろうと、個人の能力を高めるためであろうと、励ましであろうと、すべて虐待という言葉で一くくりに出来ます。

昔、巨人の星という漫画がありました。

今でいうアニメです。当時見ていて、私に知識もなかったの、虐待とは思わず、父親の愛情、強くなるための訓練と思い、可哀そうとか思わず、心のなかで

「頑張れ」と思って見ていました。虐待の典型的な事例

です。今の時代、どこかで虐待と虐待でない線引きをしなければならぬ風潮です。でも、

言葉にとらわれないでください

い。外部から身体的、精神的に

が虐待ですから、愛情の表現だとか、

言葉で虐待を歪曲しない方が良いかもしれません。

それでは、線引きをどこにするの？と声があがってきます。先ほども言ったように、愛情であろうと、教育であろうと虐待です。「勝つことが出来ました」と言って喜んでくれれば、良い虐待、善なる虐待で、反対に苦しみ自死、生きる希望を失うような結果の虐待は悪い虐待、むしろ犯罪です。虐待をする側は、虐待のその先にある物を想定して虐待して欲しいです。

横やり「虐待に良いも、悪いもないとおもいますが。虐待推進論者？ふざけなさんな、勝手な論理。めちゃくちゃだよ。

筆者こそ、文字、単語を虐待してるよ」

筆者「悪なる虐待は【逆体】にしたら」

横やり「はっ？広辞苑の編集者と直接談判したら」

筆者「いや、減算された鬱憤で、気がすんだよ」

横やり「次元、低っ!」

お粗末でした

、

虐待って？

その先に見えるよ

苦痛を与えるの

教育の一貫だとか、飾った



35年目のラブレター

先月久しぶりに映画を見に行きました。

上映機期間は終わってます

大雑把な粗筋で、読み書き出来ないまま辛い青春を過ごし、よき相手に恵まれ結婚したのですが、読み書きできない事が判ると離婚されると思い、告発出来ずに過ごしていたのですが、ばれて、夜間中学に通いラブレターを書くといった、ストーリーです。その中で、読み書きが出来ないことが判明した時に

「なぜ早く言ってくれなかったの」とか「何を勉強していたの」とか、一切、相手を攻める事はしないで、

「今まで、辛かったでしょう」の一言が、どれだけ深い思いやり（愛情）と重みに、痛感させられ、私も、このような思いやりを持ってないものか。と帰りの車中、運転しながら、妻の横顔をちらつとみると、妻は。

「良かったわね」の一言の後、前を見てないと危ないでしょうと、私が攻められているような気分、現実には、このような夫婦になるには、かなりの努力をしなければ、努力というより苦難、苦勞を乗り越えなければならぬものだと思ひながら「よかったね」と返す言葉に、何かしら物足りなさを感じて重云です。